

冬らしい寒さが到来しました。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

6年生はあと3か月で6年間の小学校生活が終わります。

新型コロナウイルスによる臨時休校でスタートという前代未聞の小学校入学。ソーシャルディスタンス、3密など、そんな言葉もあったな、と過ぎてしまえばそう思うことも。しかし、あたたかな人との関わりの距離をとらざるを得なかった3年間は、子どもたちの人としての成長に大きな影響を与えました。だからこそ、「人として大切なこと」は何かを再認識したと思います。



新年を迎え、子育てにぴったりの詩を紹介します。わたしたち大人も生きていくのに大変ですが、だからこそ「子育て」＝「親育て」＝「自分自身がよりよく生きる」と変換しながらも読んでみてください。改めて、「人として大切なこと」を考えてみませんか。

「子は親の鏡」

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人をうらやんではばかりいると、子どもも人をうらやむようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信をもつようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
讃めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる



出典：「子どもが育つ魔法の言葉」ドロシー・ロー・ノルト PHP 研究所

※この詩は少しづつ表現が違ったりしますが世界中で読まれているそうです

(文責：校長 池田明子)